

(別紙様式)

教科用図書調査に関する報告書

教科	社会（公民的分野）
----	-----------

発行者 の略称	教科書名	選定委員会から付された意見
東 書	新しい社会 公民	・ 尖閣諸島について、地理での記述が少なかったが、公民で丁寧に触れている。 ・ P50「平等権①」で、部落差別やアイヌ問題など様々な人権課題を取り上げている。 ・ 「公民にアクセス」では、国立アイヌ民族博物館を扱っており、新しい内容を取り入れ学習にいかせる点がよい。 ・ P127「私たちの暮らしと経済」で、コンビニを導入に取り上げ、生徒にとって親しみやすい工夫がされている。 ・ ICT の活用について、QR コード先の情報が分かりやすい。 ※選定委員から採択にふさわしい教科書との意思表示があった。
教 出	中学社会 公民 ともに生きる	・ P163「公民の窓」のコラムでは、「豊かさと GDP」の関係について問題提起されている。 ・ 財政と社会保障を別の単元で設定しているのが特徴である。 ・ 「確認」と「表現」では、確認すべきことがまとめられていて分かりやすい。 ・ 右ページ下に SDGs の視点が明記されている。 ・ ICT の活用のサイトは、あまり学びにつながるものではない。
帝 国	社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して	・ P111「アクティブ公民」の「あなたが無人島に漂着したら？」は、経済活動について考える難しい内容だが、設定や問題の工夫により、生徒が考えやすくなっている。 ・ P49 自分たちも取り組んでいる人権作文コンテストの作文が掲載されており、生徒は親しみがもてる。 ・ ICT の活用において、QR コードの情報がよい。 ・ 今後のあり方が大きな課題である社会保障について、2 ページしか扱われておらず、やや少ない。

日 文	中学社会 公民的分野	・ P110 地方公共団体の仕事において加古川市が取り上げられていてとてもよい。 ・ P167 社会保障、少子高齢化など、データやグラフで経年変化や負担率が示されており、資料をもとにした議論により生徒は学習を深めることができる。 ・ P122、123「わたしたちの生活と経済」では、文化祭を取り上げ、公民の見方・考え方が分かりやすく説明されている。 ・ P163 右下にある「国債残高と歳入に占める国債発行額の割合の推移」のグラフは、割合の最大スケールが 50%になっており、1990 年度の落ち込みが強調されている。一方で、P17「情報スキルアップ」には「グラフのトリックに注意しよう」という記述があり、違和感がある。 ・ ICT 活用の QR コード先の内容は分かりにくい。 ※選定委員から採択にふさわしい教科書との意思表示があった。
自由社	新しい公民教科書	・ P67 に「象徴天皇は、現代の立憲君主制が目標とするモデルの 1 つとなっている」との記述があり、公民の教科書に記載される文としては違和感がある。
育鵬社	[最新] 新しいみんなの公民	・ 憲法成立の過程や領土・領海問題、拉致問題等がバランスよく、細かく書かれている。 ・ 日本国憲法成立の過程については、歴史的事実を正確に伝えているだけであると感じる。 ・ P183 拉致問題の記載は、タイムリーな問題で忘れてはいけない内容である。 ・ P186～189 領土問題や SDGs も取り上げられていて良い。 ・ P50・51 安全保障については、他社よりも具体的な記載がある。 ・ P59～61 部落差別や在日外国人、アイヌ問題、ハンセン病など多様な人権課題が取り上げられているが、トライの質問については、生徒に提示する際にその方法を考える必要がある。 ・ P176 資源・エネルギー問題では、東日本大震災の原子力発電所の写真が載っていない。 ・ P72・73「憲法のこれから」では、改正の議論にまで踏み込んでいる。生徒が議論することで深い学びになるが、内容が高度ではないかを感じる。 ・ P155 社会保障の結びの文に、「私たちは本当の豊かさとは何かを考える時期に来ています。」とあるが、それを考えさせるための資料などが、もう少し丁寧に入っているとよい。 ※選定委員から採択にふさわしい教科書との意思表示があった。